

教科	数学	科目	数学Ⅰ下	年次	2	単位数	1
使用教科書 (副教材など)		高校数学Ⅰ（実教出版）					

学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形と計量、集合と論証、データの分析についての基本的な概念の理解を深め、基礎的な技能の習熟を図ります。 (2) 中学校で学習した内容について、確実な習得を図ります。 (3) 事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てます。	
評価の観点	① 知識・技能	図形と計量、集合と論証、データの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号など基礎的な知識を理解し、事象を数学的に考察し、表現し処理する能力を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	図形と計量、集合と論証、データの分析において、図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導いたり、集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をしたりする能力を身に付けている。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	数学的活動を通して、図形と計量、集合と論証、データの分析における考え方に関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
評価の方法	定期考査に加え、提出物（ノート、学習プリント等）、小テストの成績などで総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とし、授業態度や参加姿勢に加え、思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。	

	単元	学習内容
前期		
後期	1 三角比	- 相似な三角形の性質を理解し、辺の長さを求めることができるようにします。 - 正接、正弦、余弦の意味を理解します。 30°、45°、60°の三角比の値を求めることができるようにします。 - 三角比を利用して具体的な場面の問題を解くことにより、三角比の有用性の認識を深めます。 - 三角比の相互関係について理解し、一つの三角比の値から他の二つの三角比の値を求める学習をします。 $90^\circ - A$の三角比について、記号を使って表現したり、公式の意味について理解したりすることができるようにします。
	2 三角比の応用	- 鈍角の三角比を理解します。 - 三角形の面積の公式を導く過程を考察します。 - 正弦定理を用いて、三角形の辺の長さを求められるようにします。 - 余弦定理を導く過程を考察します。
	3 集合と論証	- 部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を図を用いて理解し、記号を使って表すことができるようにします。 - 集合を使って命題の真偽の理解を深めます。 - 必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を知り、さらに図表示による包含関係と関連付けて理解します。 - 集合の考えを用いて、対偶の真偽を使った命題の証明方法について考察します。